白清　学

上杉鷹山

『上杉鷹山』
童門冬二著／学陽書房

長岡で偉人と言えば、山本五十六氏を挙げる方が多いのではないかと思う。では、この山本氏に影響を与えた人物を御存知だろうか。もちろんあれだけの人物なので、多数の方と関わり、影響を受けたものと思うし、長岡であれば河井継之助氏の名前を挙げる方も多いのではないかと思うが、私としては上杉鷹山公の名を挙げたい。

上杉鷹山は、現在の山形県、出羽国米沢藩の上杉家第９代藩主である。上杉謙信を藩祖とし、景勝を初代藩主とする米沢藩は、豊臣秀吉から直江兼続に与えられた封地である。しかしながら関ヶ原の戦いで破れ、禄高を縮小され、上杉家には米沢藩30万石のみが与えられることになる。その後は、忠臣蔵で有名な吉良上野介の放蕩の借金を背負わされるなどにより、これ以上ないほど財政が逼迫し江戸幕府に版籍奉還を申し出る寸前に至っている。この上杉家を立て直すために、17才の若さで婿養子として藩主に招かれたのが鷹山で、質素倹約を旨とし、産業振興を奨励し、古いしきたりと戦いながら、藩民の意識を変えることに成功した改革のリーダーであり経営者である。そして次々代の藩主斉定の代に蔵元への借金を返済し、明治維新まで上杉家を存続させる礎となっている。

私が上杉鷹山を知ったのはバブル崩壊後に書店に並んでいたハウツー物の文庫本であったと記憶している。当時は、経済的に困窮した時にだけ、こういった人物に焦点を当てるのではなく、日頃から手本にするべき偉人なのではないかという感想を抱いたのであるが、不思議と教科書には取り上げられていない人物のようである。鷹山の名を知らなくとも、「為せば成る　為さねば成らぬ何事も　成らぬは人の為さぬなりけり」という名言を聞いたことはあるものと思う。また、ジョン・Ｆ・ケネディが大統領就任時に「尊敬する日本人は？」と問われて「ウエスギヨウザン」と答えたと言われている。こういった言葉や評価の背景を知る意味で、価値の高い作品と捉えている。紹介する本は鷹山の生涯を描いた物語であり、気軽に読むことができるので、ぜひとも目を通していただければと考えている。

執筆者紹介

白清　　学

電気系助教。専門領域は、計算機システム・ネットワーク。

『書名』　著者名　翻訳者名　出版社または文庫・シリーズ名　出版年　税込価格

『小説上杉鷹山　上・下』童門冬二著　学陽書房（人物文庫）　1995年　各693円

ブックガイド目次へ